

平成26年度国庫補助事業：中央アジア地域等貿易投資促進事業
中央アジア等産業育成ビジネスマッチング事業
第1回受入型ビジネスマッチング
「タジキスタン玄武岩繊維・バイオ肥料製造グループ・ビジネスマッチング」

実施概要

一般社団法人 ロシア NIS 貿易会 (ROTOBO)
ロシア NIS 経済研究所

1. 中央アジア等産業育成ビジネスマッチング事業の目的

本事業は、日本と中央アジア等地域との間の貿易・投資関係の発展と、対象国の産業多角化ならびに市場経済化促進に資することを目的とする「中央アジア地域等貿易投資促進事業」の一環である。原燃料・一次産品生産に特化した単純な産業構造を擁する中央アジア諸国にとって、産業多角化が長期的経済発展を図る上で不可欠の要件であるとの認識に鑑み、これを日本企業とのビジネスマッチングを通じて支援する。日本における事業パートナーの発掘を望む現地の業界団体・企業グループの訪日、あるいは同様に現地における事業パートナーとの出会いを望む日本の企業団体等の現地渡航を、情報提供や然るべき企業の紹介等によってサポートし、双方の交流活発化による貿易・投資促進を図る。

特に、原料基盤を生かした加工業、資源開発のサポーター・インダストリーとなる機械製造業等、対象国に適合した製造業分野の企業と、加工度の向上や環境適応能力の向上につながる高度技術を擁する日本企業をマッチングさせることにより、前者には生産性や品質の向上、後者には新たなビジネスチャンスとなる双方ウィンウィンの関係構築を目指す。

平成 26 年度は中央アジア諸国の在京大使館ならびに ROTOBO の現地パートナー機関、また現地の日本センター等を通じて現地側より案件の募集を行い、書類審査により招聘あるいは派遣案件を選定した。

2. 第1回受入型ビジネスマッチング

1) 経緯

平成 26 年度の事業実施状況は以下の通り。

- 5月 28日 ビジネスマッチング案件募集を、中央アジア6カ国(アゼルバイジャン大使館を含む)の在京大使館および現地パートナー経由で開始。
- 6月 20日 応募締め切り。
- 6月下旬～ 案件審査、順次結果通知。

今回実施したのは以上の経緯を受けての招聘事業、第1回受入型ビジネスマッチングである。

もともと別件で6月10日、在日タジキスタン大使館より7月に同国に関する投資プレゼンテーションを開催したいとの依頼があった。その際、ポボゾダ・タジキスタン大使が推奨したプロジェクトの1つが玄武岩繊維製造案件であり、これを扱う企業を含むグループが本事業に応募してきたため、優先的に審査を実施した。投資プレゼンテーションをビジネスマッチングの機会として有効利用する可能性があるためである。審査の結果、①

対象案件が現地で生産される資源を活かした先進的技術であり、日本企業とのビジネスマッチングの観点から有望と考えられること、②タジキスタンを本事業の対象とするのは初めてであり、日本企業に新鮮な情報を提供する機会となりうること、の2点から採択することを決定した。

2)に示す3企業・3名からなるグループを3)の日程で招聘、日本企業向けプレゼンテーション、関連企業及び機関との面談・訪問等を実施した。

2) 招聘対象者

① アブドゥロエフ、フルシェッド・カリモヴィチ (ABDULLOEV Khurshed Karimovich)

役職: 研究開発・生産企業「トチバルド」投資開発ディレクター

② ラヒモヴァ、ザミーラ・オディナエヴァ (RAKHIMOVA Zamira Odinaevna)

役職: 「Khovar Biotekh」社 プロジェクト部長

* 土壌回復用バイオ肥料製造工場建設提案

③ ラヒモヴァ、シャフロ・カリモヴァ (RAKHIMOVA Shakhlo Karimovna)

役職: 「MKF Invest」社社長、マイクロクレジット・預金会社「Capital Plus」副社長

* テレコム・インターネット等事業向け投資誘致提案

3) 招聘企業概要

3-1) 研究開発・生産企業「トチバルド」

企業名	研究開発・生産企業「トチバルド」(Tojvard)		
住所	タジキスタン共和国、ドゥシャンベ市 ルダキ大通り 137 734003		
Tel/Fax	+992 446005462		
代表者	ミルゾエフ、ムハマッド・ババジヤノビッチ (MIRZOEV Mukhamad Babadzhanovich)	代表者役職	社長
企業の所有形態	閉鎖型株式会社		
事業分野	玄武岩繊維(バサルトファイバー)製造、他	製品	玄武岩繊維関連製品、肥料、農業関連製品、繊維品等
従業員数	110人	資本金	200万ドル
		HP	www.tojvard.tj
輸出	なし	輸入	生産設備
企業 PR	当社の企業目的は最先端生産技術・設備をタジキスタンの様々な経済分野へ導入すること。目的実現のために各分野の学者、専門家、アカデミー会員などによる研究者会議を社内に設置している。もっとも有望な分野として、バサルト強化プラスチック関連製品・ジオテキスタイルの生産に従事。その他、環境適応型都市建設、繊維原料生産等、事業多角化を検討中。		
担当者	氏名	アブドゥロエフ、フルシェッド・カリモヴィチ (ABDULLOEV Khurshed Karimovich)	

	役職	投資開発ディレクター
	電話番号/FAX	+992935836869
	e-mail	khurshed.abdulloev@tojvard.tj
		

3-2) 「Khovar Biotekh」社

企業名	「ホバル・ビオテック (Khovar Biotekh)」		
住所	タジキスタン共和国ドゥシャンベ市ルダキ大通り 13 5F		
設立年	2013 年 12 月 31 日	企業の所有形態	閉鎖型株式会社
事業分野	バイオ肥料生産	製品	バイオ肥料(予定)
企業 PR	農業分野における技術開発、イノベーション推進を目的に 2013 年末に設立。タジキスタンにおけるマイクロバイオ肥料生産・販売を行う合弁企業の設立と工場の建設についての協力協定をロシア・イルクーツクの研究生産公社「ヴォストーク」と締結。当面、ロシアの農業微生物技術のタジキスタン農業への導入を図るが、企業目的達成のため、国内外のパートナー、投資家探しを積極的に行う予定。		
担当者	氏名	ラヒモヴァ、ザミーラ・オディナエヴァ (RAKHIMOVA Zamira Odinaevna)	
	役職	「Khovar Biotekh」社 プロジェクト部長	
	電話番号/FAX	+992935836869 (Tojvard 社共通)	

3-3) 「Capital Plus」社

企業名	マイクロクレジット・預金会社「キャピタル・プラス (Capital Plus)」		
住所	タジキスタン共和国ドゥシャンベ市デフラヴィ通 12/3		
設立年	2004 年	企業の所有形態	閉鎖型株式会社
Tel/Fax	+992372244812	HP	www.capitalplus.tj
事業分野	中小企業向け融資、消費者金融、農業ビジネス等		

企業 PR	10 年以上にわたり中小企業金融に従事、タジキスタンの金融市場で急速に成長している企業の 1 つ。スポット取引のために複数のロシアの大手銀行と契約締結。競争力維持のために資金投資を必要としており、ポテンシャルのある投資家・パートナーを模索中。	
担当者	氏名	ラヒモヴァ、シャフロ・カリモヴァ (RAKHIMOVA Shakhlo Karimovna)
	役職	「Kapital Plyus」副社長
	電話番号/FAX	+992372244812

4) 招聘日程: 平成 26 年 7 月 22 日(火)～7 月 27 日(日) 6 日間

			日程	宿泊地
0	7 月 21 日 (月)	08:00 11:30 18:15	ドゥシヤンベ発 (SZ201) モスクワ (DME) 着 モスクワ (DME) 発 (JL442)	機中泊
1	7 月 22 日 (火)	08:35 11:30-12:00 13:30-14:00	成田着 *成田空港→ホテル (公共交通機関) *ホテルチェックイン ■キックオフ・ミーティング (於: ROTOBO) ■経済産業省訪問: ロシア・中央アジア・コーカサス室表敬	東京
2	7 月 23 日 (水)	10:00 14:00 16:00	■JICA 訪問: 東・中央アジア部中央アジア・コーカサス課 ■日系コンサル会社訪問 ■在日タジキスタン大使館訪問	東京
3	7 月 24 日 (木)	AM 11:30-13:15 13:30-15:30	*プレゼンテーション準備 ■タジキスタン一行歓迎昼食会 ■タジキスタン投資プレゼンテーション (於: 如水会館)	東京
4	7 月 25 日 (金)	09:16 10:26 11:15-12:30 12:30 14:30-15:20 16:02 17:16	東京駅発 (なすの 255 号) 那須塩原駅着 ■日本企業 (繊維加工) 工場見学 昼食 ■日本企業 (有機肥料) 工場見学 那須塩原駅発 (なすの 278 号) 東京駅着	東京
5	7 月 26 日 (土)	終日	資料整理	東京
6	7 月 27 日 (日)	10:45 16:00	*ホテル→成田空港 (公共交通機関) 成田発 (JL441) モスクワ着	[モスクワ]

7月28日 (月)	13:05 18:00	モスクワ (DME) 発 (SZ200) ドゥシャンベ着	
--------------	----------------	---------------------------------	--

◇宿舎

銀座キャピタルホテル(新館)

住所: 東京都中央区築地2-1-5

電話: 03-3543-8211 / FAX: 03-3543-7839

5) タジキスタン投資プレゼンテーション

- ①日時: 2014年7月24日(木) 13:30~15:30
 ②会場: 如水会館 3階 富士の間
 ③参加人数: 約45名
 ④プログラム: ◇報告1. G.ボボゾダ 駐日タジキスタン大使 「タジキスタン経済の現状と展望」
 ◇報告2. 研究開発・生産企業「トチバルド」社 「玄武岩繊維製造プロジェクトについて」
 ◇報告3. 「Khovar Biotekh」社 「バイオ肥料製造工場建設に関する提案」
 ◇報告4. 「Capital Plus」社 / 「MKF Invest」社
 「テレコム・インターネット事業及びマイクロファイナンスに関する提案」

⑤記録(招聘企業の報告のみ記述):

フルシェッド・アブドゥロエフ 研究開発・生産企業「トチバルド」社 投資開発ディレクター

トチバルト社は建設、機械製造、農業などの分野にイノベーション、新技術を導入することを目的に活動を行っている研究産業合同体である。今回のプレゼンテーションでは現在プロジェクトが進められている玄武岩連続繊維(以下、BCF)の製造とそれを利用した製品の製造について紹介する。

BCFは玄武岩を1,000~1,600度の高温で溶解することで製造する。国土の93%が山岳地帯であるタジキスタンにとって、その原料となる玄武岩は安価かつ容易に入手ができる原料である。実際に行った調査でもタジキスタン国内における玄武岩の確認埋蔵量は数千万tになるという結果が出ている。

本プロジェクトにおいてBCFおよびその製品の生産工場は、ドゥシャンベ市内にある以前機械製造を行っていた工場を利用する。既存の設備を利用するため、すでにすべてのユーティリティが整っており、鉄道インフラへのアクセスも確保されている。加えて、原料となる玄武岩はドゥシャンベ市の郊外から産出する良質な玄武岩を利用する予定となっており、原料、エネルギー、労働力供給の観点からも最適の立地条件になる。

国内において金属製品の製造が行われていないタジキスタンはほぼすべてをロシア、ウクライナ、トルコ、中国といった国外からの輸入に依存している。また、現在、タジキスタンは建設ラッシュであり、国内の金属製品に対する需要は急激に増加している。2008年、約8億ドルであった金属製品の輸入額は、2014年上半期、すでに約15億3,000万ドルにまで拡大した。そのような理由からタジキスタンでは金属の代替素材の開発研究が進められており、鉄よりも軽く強度があるBCFに注目が集まっている。加えて、BCFは酸・アルカリへの耐性、高い腐食耐性、不燃性、耐火性を有するため建材としての利用も検討されている。さらに他の素材との両立性が高いためアスファルトなどの補強材としても優れている。

BCF製造業は、タジキスタン国内に競合他社がおらず、国内に新しい産業を興し、その育成を図るという意味においても非常に戦略的な分野となりうる。プロジェクトでは、まず、12,500tの生産能力を有する工場を建設し、国内市場向けの事業展開を行っていく予定である。しかし隣国にBCF製造業で競合する他社が存在し

ないことを考慮すると、今後はさらに生産能力を拡大し、国外市場に向けて輸出することも考えている。

ザミーラ・ラヒモヴァ 「Khovar Biotekh」社 プロジェクト部長

Khovar Biotekh社はタジキスタン経済における主要産業である農業にイノベーション技術を導入することを主な活動のひとつとしている。今回は現在進められている複合マイクロ肥料(以下、CMF)の生産工場をタジキスタンに建設するプロジェクトについて紹介する。

世界中でマイクロバイオ肥料は利用されているが、われわれの開発したCMFには様々なバクテリアが含まれており、それらバクテリアの働きによって空気中の窒素をそのまま吸収することや、土壌中の無機栄養素を最大限活用することができる点に特徴がある。リンを例に取ってみると、通常、リン化合物を肥料として撒いたとしても、そのうちの一定量は土壌に吸収されてしまい植物が利用することはできない。しかしCMFに含まれているバクテリアの働きによって土壌に吸収してしまったリン化合物を再び植物にとって利用できる形に分解することができるのである。われわれの実験ではCMFを利用することで、土壌1kgあたりから19mgのリンを分解、復活させることができた。さらにCMFを使用してから1年後には、使用する無機肥料の量を従来比で90%も削減することができ、さらにそれから3～4年後には無機肥料の使用量をほぼ無しにすることに成功したのである。また、CMFを綿栽培に利用した際には、綿の収穫量を30%程度増加させることに成功している。

今日までCMFの実験および検査はタジキスタン以外にもロシア、ウクライナ、ウズベキスタンで行ってきたが、すべて肯定的な結果であった。そして2003年にロシア、カザフスタン、トルクメニスタンなど10カ国が所属しているユーラシア特許協会において特許を取得している。

現在、Khovar Biotekh社ではこのCMFの生産工場を建設するプロジェクトを進めている。同工場では年間2,400tのCMFを生産する能力を獲得することを目指している。このCMF2,400tというのは灌漑農地10万haをカバーできる量となる。その後は生産能力を拡充し、国外への輸出も視野に入れていきたいと考えている。

シャフロ・ラヒモヴァ 「MKF Invest」社 副社長

MKFインベスト社は2003年の設立から今日に至るまでの11年間、タジキスタンで高速インターネットや電話サービスの提供といった通信事業を行っている。

今日のタジキスタンの通信状況を見てみると、国内におけるインターネット普及率が13%とかなり低い水準にあり、また、光通信インフラが未整備であるため、地域によっては通信費が非常に高くなっている。一方で、近年はLTEなどの新世代の通信技術が急速に発展してきており、また、国内市場にも主導的な企業が存在していないなど、今後、事業を拡大していく上での優位性もある。

そのため、テレマティクスサービス、国際通信サービス、移動体通信サービス、ケーブルTVおよびIPTVサービスの提供などが今後のタジキスタンの通信市場において有望な事業となってくると考えられる。そのためMKFインベスト社では戦略的プログラムとして最大2億分/月の通信容量を有する国際トラフィック終端ノードの構築、光通信インフラの構築、LTE通信網の構築、ケーブルTVおよびIPTV事業の設立などを戦略的プロジェクトとし、すでにこれら事業を行うのに必要となるライセンスを取得している。加えて、タジキスタンは地政学的に周囲を中国、キルギスなどに囲まれており、それら国々とのトランジットトラフィック事業も大きな可能性を秘めているといえる。

シャフロ・ラヒモヴァ 「Capital Plus」社 副社長

マイクロクレジット・預金会社のキャピタル・プラスは10年以上タジキスタンにおいて金融サービスを提供し

続けており、著しい成長を遂げつつある企業である。主な事業は貸付、外貨取引、SWIFT取引、預金、中小企業育成や農業ビジネス向けの融資、消費者クレジットである。

現在、我々は国外のパートナーとの連携強化を重視しており、様々な国際プロジェクトの実現に取り組んでいる。たとえば、ロシアの銀行Novikom Bankとの間にスポット取引に関わる協定の締結したこと、グルジアのパートナーと共同で送金システム「ユニストリーム」の構築を進めていること、また、インドのソフトウェア会社Virmatiとの間でタジキスタンには前例がない高・多機能バンキングシステムの導入計画が進んでいることが挙げられる。

さらなる当行の成長戦略は中小企業および個人企業家の育成支援を積極化することである。今回、プレゼンを行ったトチバルトやホバル・ビオテックといった国内産業の活性化を目指す企業の後押しを通して、タジキスタンの経済全体の改革を行っていきたいと考えている。そして長期的には中小企業向けバンキングサービスにおいて国内市場でトップになることを目指している。しかし、これを実現するためにも十分な資金調達が不可欠であり、国内外のパートナーを現在探している。

➤ 招聘プログラムの様子



日本企業との面談



投資プレゼンテーション



肥料プラントの視察

以上